

1. 水俣第二中学校環境教育「3つの心を育てる挑戦」取組構想図



## 2. 二中環境ISO行動項目 宣言

昨年度の反省を踏まえ、今年度は分別収集活動への参加率を95%に引き上げ設定をしました。行動項目は各学年の廊下と(A4版)、環境ISOコーナー(広用紙)に掲示しており、校内の多くの場所に掲示することで、どこにいても行動項目を意識できるようにしています。また、生徒集会での呼びかけや環境検定の問題への出題、行動項目に関するアンケートなどを用いての意識づけなどを行い、より多くの場面でこの行動項目について考えるようにしました。

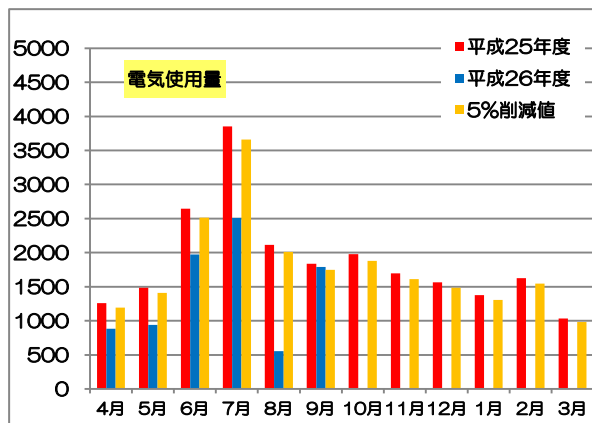
## 3. 行動の記録

今年度、電気使用量が昨年度と比較し、削減することができています。これは晴れた日や昼休みに積極的に電気を消す活動を、環境ISO委員会を中心として行ったことが一因と考えます。この活動は、環境ISO委員会が期間を決め、昼休みに電気を消してあるクラスを調査し、クラスマッチ形式として給食の放送で表彰を行うものです。また、合わせて体育委員会が「外で遊ぼう運動」を呼びかけており、昼休みに教室に残る生徒が少ないことも電気使用量の削減に一助を担っています。

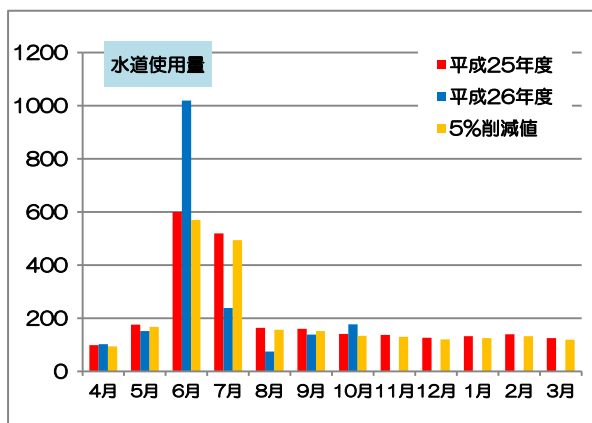
水道使用量も5%の削減の目標は達成できていませんが、昨年度同様にバケツ半分での清掃やコップ一杯での歯磨きなどの取組がきちんとできたため、昨年度と同じ量を維持することができています。

6月が大幅に増えたのは、プールの水道使用量を計算に入れていることが原因であるため、来年度からはプールの水道使用量を除いた形でも準備をしたいと考えています。また、グラフには現れていませんが、上水道と下水道で見ると、下水道の割合が増えているという現状があるため、今後は二つを分けた形でも年度の比較ができるようにデータを作り直したいと考えています。

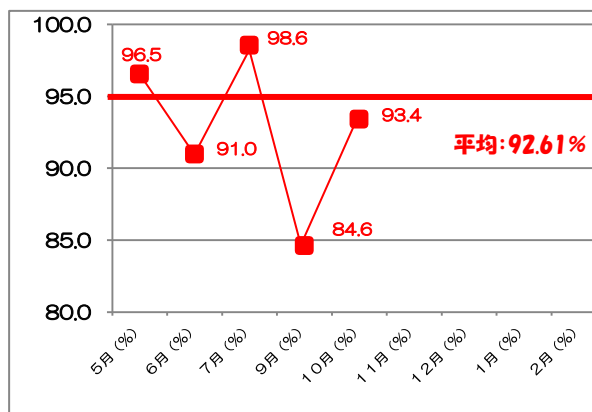
分別収集活動参加率は95%以上を目標としました。これは、昨年度の95.53%という参加率を受け、生徒がもう一度95%を目指したいという気持ちから設定しました。昨年同様に呼びかけの徹底や委員会のメンバーの意識づけを心がけてはいますが、現在は目標達成が厳しい状況となっています。これは、今年度ステーションの配置を新たにし、ほぼ全ての生徒が自分の地区の分別に行けるように取組を行った結果、1年生だけでなく2、3年生も新たなステーションに移動した生徒がおり、日程の確認などで混乱が生じてしまったため、徹底がうまくできなかったことが原因と考えられます。



【各月の電気使用量の比較】



【各月の水道使用量の比較】



【各月の分別収集活動の参加率】

来年度に向け、再度確認・徹底を行いたいと思います。

また、今年度分別収集活動は参加だけでなく、活動の向上として服装と態度面を、チェックリストを用いて評価するようにしました。これは、ただ参加だけしている生徒を減らし、目的の一つである地域との交流をより深められるようにしたいと考えて実施しました。さらに、参加の態度向上を呼びかけるポスター制作も行いました。



学年	月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
1											

【参加を呼びかけるポスター】→

←【分別収集活動  
参加チェックリスト】

年組	生徒氏名	月 日	※参加者は評価を行い、不参加は×、欠席理由がある場合は理由を記入してください															
			5	6	7	8	9	10	11	12	1	2						
1			服	態	服	態	服	態	服	態	服	態	服	態	服	態	服	態

#### 4. 見直し（成果と課題）

##### (1) 成果

昨年度の課題であった、「取組に対する生徒の主体性が少ないという点」や「現状の維持が目的となりつつある点」を踏まえ、今年度はまず分別収集活動での態度面の向上を図ることや分別収集活動の活動場所を吟味し、ほぼ全ての生徒が自分の地区に活動に行けるように全生徒を再配置することを試みました。その結果、服装忘れの減少や参加態度についても担当職員なども確認をすることができるなど、活動内容の向上につながる手立てとなったと感じます。また、生徒も自分の地区に活動に行けるようになったため、活動に対する意欲も向上したと考えられます。

節水・節電では生徒が主体的に削減のために活動を考え実践している結果、水道・電気使用量の削減ができています。さらに、削減が足りない水道使用量については上水道と下水道に分けて、具体的にどちらに力を入れて呼びかけを行うのかを考えるなど、より内容の充実した取組になっています。

他校との交流会は3年目を迎え、各校の取組紹介だけでなく、今年度は環境のことを考えた活動についてグループディスカッションを行うなど、自分たちで活動を考えていく内容としました。環境に対する活動を小・中学校で連携を図りながら、より高いレベルで活動を行えるように今後も交流を深めていきたいと思っています。

##### (2) 課題

節水・節電活動において、「前年度の5%削減」という目標設定が数値として厳しい状況になってきたと感じています。毎年5%削減を掲げており、それに向けて取組を行ってきた結果、使用量の数値がある程度定まってきました。そのため、今後ははっきりとした目標数値を設定し、そこを目指すような取組にすべきではないかと考えます。

全校生徒が自分たちの活動に誇りを持ち、胸を張って「環境二中」とであると言えるように、活動への意欲の向上を図る取組を行っていき、更なる活動の改善につなげていきたいと思っています。

## 5. 資料

### 3つの心の育成を目指した取組の実践活動（H25年度からの継続）

3つの心	活動内容	委員会の関わり	教師の関わり
もったいないの心	分別参加率や節電・節水の結果をグラフ化し、掲示 	環境ISO委員会で集計した結果をグラフにし、生徒が目につく場所に掲示をして、啓発をする 	掲示場所の確保や作成の指導をする。
やってみようの心	ゴミ分別収集活動（校内） 	整美委員会が各教室に設置してある3種類のゴミ箱（燃やすゴミ・紙・廃プラ）に分けて、曜日ごとにリサイクルステーションで収集している。	環境教育の分別担当職員がリサイクルステーションに立ち、生徒とともに呼びかけを行っている。
	ゴミ分別収集活動（地域） 	水俣市の行政区単位を活動範囲とし、毎月指定日に実施している。環境ISO委員会が分別収集の周知徹底や参加率を集計し、環境ISOだよりで報告している。地域の方々との交流の場となっており、文化祭などの行事のときには紹介のチラシを配布している。	参加率を計算するExcelシートを作成。分別生徒会を開いたり、1年生には講師を招いて分別学習会を開いている。 
	節電・節水運動 	水道使用量、電気使用量を昨年度より5%の削減を目指し、節電・節水に取り組んでいる。節電では、使用しない教室の電気は消すことだけでなく、掃除の時間にも、電気を消す。節水は、コップ一杯での歯磨きや掃除の際のバケツ半分の使用を行っている。使用量は比較できるように、グラフに表し環境ISOコーナーに掲示している。	電気使用量・水道使用量を計算し、環境ISO委員会で報告させている。
	校内環境検定 	選択形式での問題とし、環境問題や地域の分別に関する行動面など基本的な事項となっている。環境ISO委員会が問題を作成している。検定に対する意欲を喚起するため、朝自習の時間を利用して5問程度の練習問題を6回実施し、本検定を実施している。満点者は環境名人として表彰し、さらなる意欲の喚起を目指している。	環境検定に向けた取組を計画し、実施している。趣旨に合った問題かどうか点検を行っている。職員への協力をお願いする。
	親子ビンリサイクル活動 	年1回、1月に実施、PTA役員の整備部が担当し、親子で地域を回りビン・カンを回収し、リサイクルする。	整備部担当の職員を中心に、職員全体で取り組んでいる。
	校区クリーン作戦 	環境ISO委員会が中心となり、写生大会などでお世話になった場所や道のゴミ拾いをしながら帰ってくる。その場で環境ISO委員会が分別の呼びかけを行う。	行事担当職員と連携をとり、行事の流れの中に組み込むように取り組む。
	その他の活動 	昨年度、「水銀に関する水俣条約外交会議」に参加した。ゴミ分別収集の体験ブースを担当し、海外の方々にも水俣市や水俣第二中学校の取り組みを紹介することができた。今年度は、1年生全員が1周年フォーラムに参加し、条約に対する学習を深め、自分たちができることを考えた。	生徒への周知と、当日の引率および指導をする。
広めようの心	環境ISOだよりの発行 	毎月担当が、分別収集参加率や節電・節水の結果など情報を発信する。家庭への環境ISOを促す。	担当生徒とともに記事内容を考えたり、出来上がった記事の確認を行う。
	他校との交流会 	夏休みに一中・一小と交流会を行っている。各中学校の活動を勉強し、自校の改善すべき点などを考えている。H26年度は環境に関するテーマを決め、3校でグループディスカッションを行った。	他校との連絡・調整を行う。 ※更なる広がりを目指したい。
	各事業への参加・応募	<ul style="list-style-type: none"> <li>水俣市環境スタディーツアー推進事業（H26年度）</li> <li>環境美化教育優良校等表彰事業</li> <li>学校自慢工科大賞</li> <li>子どもエコクラブ壁新聞展</li> <li>ソロプチミスト日本財団 学生ボランティア賞 など</li> </ul>	各事業に応募し、生徒の取組を紹介する。全国的な事業などに積極的に応募し、その結果を生徒にフィードバックしていく。